

連載⑱
内海善雄の
(ITU前事務総局長)
やぶ睨み
「ネット社会」論

日本変革の妙薬——個室の薦め

行ってきたつもりだ。しかし、自分の意見を主張することばかりを考えていた国際社会に八年間どっぷり漬かっていると、あまりの格差に驚く。

役所も企業も、上の者が決めたことやマスコミが言っていることに対して異論を挟むことをせず、原理主義が横行してしまっている。役人も企業人も周囲を見渡し、慣例に従い、横並びのことばかり考えているようである。

政治学者の丸山眞男が指摘した、日本のリーダー個々人は戦争に勝てないと思っていたが、ずるずると開戦し、また誰も戦争を終わらせることができなかつた「無責任の体系」は全く変わっていないのである。そのうち、もしかするとこの人たちは単に気配りをしていいるのではなく、本当に自分の意見を持つていないのではないかと思うようになった。

欧米社会や国際機関の中では逆のことが行われる。自分が他人とどこが違うのか、アイデンティティを重視する。自分の意見を持つことが極めて重要であるばかりか、他人に対する気配りよりも、どうやって自分の個性を出すか、服装のほうに相当の気を使う。

早稲田大学で教鞭をとっていると、残念な

から学生はもっぱら就職活動一色である。したがって、講義も自然と学生の関心事である就活が話題になる。

「自分を売り込む就職活動で就活スーツを着るべきか」と尋ねてみたら、全員が「着るべきである」と答えた。「自分は着たくないが、採用側が協調性のある学生を選ぶ以上、リスクはとれない」と学生が応えるのには身がたまされる思いがした。

経営者がいくら「独創性のある人物を求めろ」と言っても現実には大きく乖離していることを、現代の学生たちは敏感に感じ取っているのである。個性のある独創的な学生も就活を機に没個性の社会人に変身しないと生きていけない日本社会は、救い難いほど同質性を求めているのである。

金太郎飴では戦略は立てられない

日本で活躍している日系アメリカ人の友人に、「なぜ日本人は戦略的な発想ができないのか」と聞いてみた。

「当たり前でしょう。アメリカのように、さまざまな人種や考えを持つている人がいないから、皆、疑うことも考えることも必要がな

いのだから」

「和を以つて尊しとなす」を国是とし、世界から隔離された日本では、人を疑ったり、出し抜いたり、騙したりすることが一番悪いこととされる。「策士」とか「したたか」などは決してプラスの価値評価とは言えない。一方、アメリカでは、子供の「がき大将」はグループの中で一番嘘をつく能力がある者だという研究結果さえある。

長期にわたる日本経済の低迷は、BRICSの勃興など世界経済のパラダイムシフトに



横並び意識を捨てる強制的変革のためにも個室導入のオフィス改革を

もかわならず、相変わらずその変化に対処できてないのが原因だ。この二十年間、「構造改革」の掛け声だけで、その進展がさっぱりない。それは横並び、気配り、謙虚の日本社会の「美風」が根源的な原因でないかと思う。この行動様式を変革するのは教育が第一だが、その教育者たちが戦後の「平等教育」の犠牲者で、差別や独創性の価値を理解しない者ばかりだから、いくら教育制度をいじつても効果が期待できない。ならば、どうやれば日本社会を変革して国際競争力を持てるようにできるのだろうか。

個室で遮断する横並び発想

私は「個室主義」を提案したい。

西欧社会では、プロフェッショナル(管理職、専門職、総合職に相当)は各人の仕事の責任が明確で、個室と秘書(一般職に相当)が付く。自分で考え、判断し、手紙を書くなどの単純事務は秘書にやらせる。そして、判断したことには全責任を負う。日本のように集団で議論をし、誰が決定を下したのか曖昧、とにかく皆で仕事をする体制とは大いに異なる。個人が必死で考え、決断し、行動をしなければならぬ。その過程で鍛えられ、そして優秀な結果を残したものがトップにまで昇るのである。このような世界では決断も速いし、横並びや気遣いは無用である。



内海善雄(うつみ よしお)

法大 1942年香川県高松市生まれ。東大 法学部卒。東芝を経て66年郵政省(現総務省)入省。電気通信の自由化など、通信放送政策を長く担当。98年国際電気通信連合(ITU)事務総局長就任。現在は財団法人「海外通信・放送コンサルティング協力」理事長。早稲田大学客員教授。

実は私は、ITUでは逆のことをやろうとして失敗をした。隣の部屋のものともメールやり取りをしてコミュニケーションが悪い個室の職員、自分のことだけを考えて帰属意識も一体感もない職員の低モラルは、大部屋で仕事をすれば一気に改善できると考えた。しかし、職員や組合の猛反対で頓挫してしまつたのである。

大部屋で仕事をする日本のやり方には多くの利点がある。しかし、あまりにも横並びや同一性を重視して変革ができない今の日本社会を改革するには、集団で取り組む仕事の仕方を強制的に変えるのが一案だと思ふ。

プロフェッショナル各人に個室を与えたい。えて明確な責任を負わせ、単純業務は専門スタッフにやらせれば、事務系職員数も大幅に削減でき、欧米並みに事務生産性が上がるだろう。空いた事務スペースで十分に個室を作ること可能だろう。個室に入れる職員も喜ぶにちがいない。経営者の一存で簡単にできる改革ではないか。